

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	07	01	02	174030	成長分野参入促進事業	
総合計画	分野	しごと				
	政策	1-2	工業の振興			
	施策	2	事業分野の拡大			
目的	成長分野への新規参入及び新たな事業展開の推進					
対象	市内企業					
意図	新製品・新技術開発及び販路拡大を図る					
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
<input type="checkbox"/> 成長分野進出事業補助金 市内事業者が新たに成長分野（エネルギー・環境、医療、福祉、食品、自動車）において行う製品開発・技術開発を支援 <input type="checkbox"/> 成長分野参入推進プロジェクトマネージャーの派遣 成長分野に進出しようとする市内事業者に対し、指導、助言						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催 後援・協賛	実行委員会・協議会 <input type="checkbox"/> 補助・助成	事業協力・協定 委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	成長分野セミナー・講演会開催回数	回	計画	2	2	
			実績	2		
②	プロジェクトマネージャー派遣日数	日	計画	6	6	
			実績	1	3	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	市の支援により成長分野に取り組んだ件数	件	目標	4	4	
			実績	3	1	
②	プロジェクトマネージャー派遣を受けた市内企業数	件	目標	2	2	
			実績	1	1	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり	<input type="radio"/>	目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
新製品や新技術開発、販路拡大の推進に向けた取り組みを支援するため、成長分野セミナーの開催や補助金の交付等の事業を展開している。 昨年度においては、本事業によりも利な補助金（国のものづくり補助金など）を活用して生産拡大などに取り組む企業が多かったなどの要因から本事業に取り組む企業数が前年度比で減少したほか、セミナーの開催も他事業との調整や本事業そのものの見直しを検討していたことから未実施となった。 また、専門的な知見を有するプロジェクトマネージャーの派遣を受けた企業は、昨今の経済情勢の改善により成長分野に取り組む余裕が少ない企業が増加していることなどの要因から目標値を下回った。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	地域産業の成長戦略展開の支援は、地域経済の活性化に直結するため、市内中小企業の育成の観点からも、市の支援により取組む必要がある。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	支援制度の更なる周知や定期的なセミナーの開催により、参入企業の掘り起こしの拡大を図ることが可能となる。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない <input type="checkbox"/>	
効率性	事業費・人件費の削減余地	必要最小限の補助金での支援が事業の主であるため、削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある 人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	全ての市内中小企業を対象としており、意欲さえあれば広く制度を活用することができるため、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある 費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
長期にわたる経済の停滞、海外との競争激化といった環境の下で、中小企業は、低コスト競争を避けて、広く海外需要も取り込んでいけるような産業分野への転換が求められている。縮小する産業があれば成長する産業もあり、今後、中小製造業もその技術力と専門性を生かし、成長分野への展開を図るとともに、新分野への挑戦、研究開発を通じて技術力を高め、品質マネジメント体制の整備を図って、競争力を強化していくことが必要である。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 商工観光部 課名 商工労政課 担当係長 薄衣孝史 内線 388

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	07	01	02	174030	成長分野参入促進事業

単位：千円

		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		6,082	969		△ 5,113
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	6,082	969		△ 5,113

※特定財源の内訳

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------	------	-----------------

部重点施策における目標
市内企業の競争力を高め、生産活動を活発にします。

事業開始の背景・経緯
産業構造の急激な変化やグローバル化が進む中で、経済社会の一層の発展を期すためには、経済発展の先導役となる産業分野等への参入を進めるとともに、知識・技術・技能の高度化を図り、労働の付加価値を向上させることが不可欠であるため

事業概要
○成長分野進出事業補助金
市内事業者が新たに成長分野（エネルギー・環境、医療、福祉、食品、自動車）において行う製品開発・技術開発を支援
○成長分野参入推進プロジェクトマネージャーの派遣
成長分野に進出しようとする市内事業者に対し、指導、助言

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

①成長分野進出事業補助金交付 439千円
市内事業者が新たに成長分野（エネルギー・環境、医療、福祉、食品、自動車分野）において行う製品開発・技術開発を支援するための補助金を交付する。
解決すべき経営課題 ⇒ 製品・技術の開発 ⇒ 進出へ向けた ⇒ 商品開発、販売（成長分野への進出） 市場のニーズ 課題の解決
製造機械の導入

フェーズ	補助対象経費	補助率	限度額	限度回数	採択基準
製品・技術開発	原材料費、技術指導費、試作費、外注加工費、実験分析費、謝礼、旅費、その他製品及び技術開発に要する経費（直接人件費を除く）	2分の1	300万円	同一年度内で 一者1回 ※市の他の補助金との併用は不可	1 新規性・独自性 2 具体性・実現性 3 市場性 4 地域活性化への波及効果
調査・販路拡大	マーケティング調査費、展示会出展費、広報費、謝礼、旅費その他調査及び販路拡大に要する経費（直接人件費を除く）	2分の1	100万円		
本格参入	機械装置費等本格参入に要する経費（直接人件費を除く）	3分の1	300万円		

②成長分野参入推進プロジェクトマネージャー派遣 150千円
成長分野に進出しようとする市内事業者に対し、専門知識を有するプロジェクトマネージャーを派遣し、成長分野進出事業を行う上で必要な指導、助言等を行う。

④その他事務費等 380千円
9 節 258千円（プロジェクトマネージャー費用弁償ほか）
11 節 22千円（事務用消耗品）
12 節 100千円（郵送料）